

Title	All you do is (to) press the button の語法について
Author(s)	吉田, 一彦
Citation	Osaka Literary Review. 5 P.65-P.71
Issue Date	1966-07-01
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/25781
DOI	10.18910/25781
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

All you do is (to) press the button の語法について

吉田一彦

I

All you do is press a button (ただボタンを押してくれさえすればいいのです) のような文は press の前に不定詞の表示である to を欠くことで、これまでしばしば語法上の問題として論議的となってきた。本稿ではこれらの成果を考慮しつつさらにこの構文の本質に迫ってみたい。

まずこの構文はイギリスにおいてもみられないことはないが、なんとと言ってもアメリカ英語に圧倒的に多いこと、つまりアメリカ英語の一つの特徴とも言うべき様相を呈していることが注目される。

次に形式としては、all (or the first thing, the + 形容詞の最上級 + thing, another thing, etc.) + do (or does, did, done) + Be 動詞 + Bare infinitive となるのが通例で、主部に do がくることが特徴である。従って Jespersen (*A Modern English Grammar*, V § 12. I₄) はこの構文は do の影響によるもの——即ち、do のあとにくる動詞は専ら Bare infinitive であらわれる (e. g. She did *go*, I do not *go*)——であるときえ言っている。この Jespersen 説は一応しておくとしても、この do がこの構文を解き明かす一つのカギとなることは確かなようである。

do という語は極めて一般的な意味しか伝え得ない語である。というのはこの動詞は人間 (あるいはその他) の行動の全てを包含し得ると言うことである。従って個々の具体的な行動は全て do の下位区分だと言えるのである。強いて図示すれば次のような関係である。

do	{	do a dance = dance (v.)
		do a walk = walk (v.)
		do a shooting = shoot
	
	

従って現実の会話で “I do.” などと言う言葉を聞くことがあるにしても、これはそのときのコンテキストで “I do (A).” の A の部分が了解されている上でのことであって、結局は前述の do の下位区分の段階の動詞のことになる。こうしてみると、本質的な意味での do はある上部概念であって、そのまゝでは現実の言葉としては使われ難い事情が存在する。しかし上部概念 (つまり class inclusion) と言うことであれば、do はあらゆる行為・行動の代表性 (あるいは一般性) という性質を帯びてくる。これは極めて便利な性質であって、人間がこれを言語の面で利用しようとするのも当然である。疑問文、否定文、あるいは強意に、代動詞に使われる do など全て、do の持つ行為・行動の代表性に基く全ての動詞の代表性という性質に糸をひいているものとも考えられる。また do が Jack of all trades と言われて時として purist たちの非難をこうむる最近増大しつつある次のような用法も同様であろう。

She was *doing* the parlor when the phone rang. (cf. clean)

She *did* the dishes right after supper. (cf. wash)

The car *did* 18 miles to the gallon of gasoline. (cf. cover)

I

do はこのように意味からも、また言葉の面からも (つまり全動詞の代表者格として) ある種の代表性を有している。そこで表題の構文であるが、All you do is press the button は英語の文構成の基本である S+V の形になっていて、S を名詞 (=all) で固定するというかっこうにもなっている。しかしこの構文は S となった名詞である all について云々するものではない。実は、do の内容つまり動作自体が問題となるのであって、意味的にはそれが S なのである。しかし英語では動詞そのものを S とすることは許されないのである。

ところが前にも述べた通り、do と言うのは漠としたものであるが、なんらかの行為を代表するという他の動詞にない有用性がある。このように行為を代表する最も漠とした do の内容をしばって行って、それを specify するのがこの構文の意図と考えられるのである。つまり発想的には次の例と同じなのである。

There were all kinds of things they could *do*—*carry* loads

of wood or food, *deliver* purchases, *hire* out to help pull a cart mired in the mud..... (*Reader's Digest*, January 1966)

さてそのしほり工合であるが、この構文ではそれが二段構えなのである。まずはSの段階でしぼる。従って文法的なSになるものは all, the + 形容詞の最上級 + thing, the first thing, another thing のように限定的な意味合の濃いものがあらわれる。anything などでは全然しほりにならないからこゝにあらわれることはない。do に助動詞などを付すのも同様な限定作用と考えられる。

All we *need to do* is get the sequence of things straight.

(B. Halliday : *Shoot to Kill*)

Then all you *have to do* is drive all over hell and back with him behind you.

(Id. : *Weep for a Blonde*)

このようにしても主部のところで do の第一段階の限定をしておいて、さらに述部でしほりをかけてピントを合わせる仕組みなのである。だからこの構文ではやまが二つあることになる。しかしそのやまが二つ等価的にならんでいるわけではないのであって、あくまでも重点は最後のやまにある。言い換えれば、第一のやまは第二のやまを引立たせる強意的に働く副詞的な要素なのである。次の例と同じ様な一種の suspense が感じられるのはその故である。

"All I'm certain of just now is that if there hadn't been a wreck, by this time you'd be sitting in an eight-by-ten cell."

(M. R. Rinehart : *The Man in Lower Ten*)

(cf. I'm certain just now that....)

しかもこゝで問題にしている構文では do という言わば全開的なものから急にしぼった具体的なものに移行するのであるから、強い凝縮感とも言うべきものがひとしお感じられる。テレビなどでまず焦点をぼかしておいて、それから急にピントを合わせてある種の効果をねらうのと同様である。

Ⅲ

generic な do をしほって specific な行動・行為を導き出してくる構文であって、あくまでも動作中心の構文であるが故に、その導き出された

ものは neutral なものであって差支えない。いうなれば「動作」それ自体を問題にしているわけで、むしろ意味的には名詞的な色彩が極めて濃いと言える。^⑩そして動詞の最も neutral な形は Bare infinitive であろうから、問題の構文で to の脱落する心理がわかる。そしてこの neutral なものを現実に着させる働きは他の部分で十分成され得るのである。

いわゆる「命令形 + or…」と言われる Go at once or you will miss the train のような構文も実は動詞形態のなかで最も neutral な Bare infinitive をまず出して、それと以下の文構成要素との結合関係はコンテキストによって定着させる形をとっているのであって、問題の構文もこれと軌を一にしていると言えるのである。このようなわけでこれが未分化な sophisticate されていない構文であることがわかる。^⑪しかしそれだけにかえて場合によっては強い意味合を持ち得るのであって、以下の例ではいずれもなんらかの意味で感情的になっているときの言葉である。この構文はこのようなぶっきらぼうなコンテキストで使われることが非常に多いのも一つの特徴でいきいきとした感情がこもってくるのである。

“Hell-fire !” Chism said *with a sour look*.

“All you ever do is talk about that !”

(E. Caldwell : *This Very Earth*)

“Larson didn’t commit murder after all. *All he did was fire a bullet into the body of a corpse. What irony.*”

(B. Halliday : *Shoot to Kill*)

“I’m trying to decide how much to tell you,” Shayne confessed *angrily*. “It’s going to sound like hell when I put it into plain words. You’re going to sit back in judgment and ask why in hell I let myself get pulled into it. *All I had to do was say no, God damn it. All I had to do was turn my back and walk out of the hotel room.* Which is what any sensible human being would have done,” he added *in a tone of deep disgust*.

(Id. : *The Body Came Back*)

同じ作家の作品に to の出役の目につくことがあるが、作者の書き癖ということもあろうが総体的に、他の文やそれに準じた描出話法では to を

伴って形を整えていることに気づかれる。つまり Syntax に惹かれた意識的なものがそこに見出されるのである。以下の文はいずれも描出話法である。

Shayne sighed and shrugged and put all those questions out of his mind as he neared 64 th. *All he could do was to play it by ear*, as he had so often played his hunches in the past.

(B. Halliday : *The Body Came Back*)

Otherwise, for God's sake, she was ostensibly on her own in Miami for two weeks with no strings attached. *All they have to do was to meet some place*. Her reservation had been made in advance.....

(Id. : *Murder by Proxy*)

さて to のない Bare infinitive だけの未分化な形を好むのはアメリカ英語の Syntax の一つの特徴ではないかと思われる。以下のような用法も全てこの傾向のあらわれではないかと思われるのである。

By the same token, he is aware of our responsibility to our stockholders that their interests *be* protected.

(J. Kane : *Hearse Class Male*)

[この種の構文を American subjunctive という人もある]

You go *look* for the place where the house trailer was parked over on the east side of this hill.

(E. S. Gardner : *The Case of the Runaway Corpse*)

またこのような下地があればこそ All you do is press the button のような構文がアメリカで大いに使われることが可能なのではあるまいか。こゝにいわゆる命令形に代表される動詞の未分化な形を用いる一つの系譜が見出されると思うのである。

IV

本稿の表題としては All you do is press the button という文を選んだが、家際の例文を検討してみると、一番多く用いられる形は All you have to do is press the button というように have to を含んだも

のである。Be 動詞の形も is が圧倒的に多い。この点を考えてみると、All you do 自体も非常に未分化な形であったのではないと思われるのである。つまりこの do が実は定動詞ではなく Bare infinitive なのではないかと言うことである。all は副詞的性格の強い語であることもあって、all you do は Syntax 以前の未分化な形と考えられるのである。つまり発生的には次の例と同様だと思われるのである。

The medium smiled faintly. "You will think me foolish," she murmured.

"I ? Think you foolish ? Never."

(A. Christie : *Double Sin*)

しかし Syntax の圧力は非常に強いものであるから、なかなか未分化な形をそのままに置いておくようなことはしない。命令形のようにあれで一つの範疇としてまとまってしまうほど抵抗力の強いものは別であるが、そうでないものは Syntax の圧力に抗し切れずそれに組み込まれる勢いとなるのである。その点 all you do は組み込みが容易である。そのままの形で all (that) you do だと合点し、do を定動詞と解釈すればそれでいいのである。つまり意識の上では大きな変化がありながら、形式の上ではそれが表面に出ないのである。しかし意識の上で変化が起れば、それをもとにして容易にその変形が生じてくるのは想像に難くない。All you have to do 以下次のような変形も全てこの意識の変化につながりを持っていると考えられるのである。いずれにしろ、all you have to do は Syntax のワクに合致した形であるし、euphony の面からいっても文句はない。all を have の目的語ととるにしても、do の目的語ととるにしても実際はあまり問題にならないことなのである。

".....and all I could do was point up the stairs." (B. Halliday : *Shoot to kill*)

"Now, the thing for you to do is be sensible," he told her unsmilingly.

(E. Caldwell : *This Very Earth*)

"That's right, Mike," said Rourke bitterly. "All you've managed to do tonight is dig up alibis for others. Leaving you the one guy without any alibi at all."

(B. Halliday : *Weep for a Blonde*)

そして前にも述べたが、この Syntax の圧力は当然この構文の述部にも作用しているのであって、to press the button と to をつければこの Syntax の圧力が勝利をおさめたことになるのである。つまりこゝにも意味と形態の葛藤が現出しているわけで次の例にもこの葛藤がみてとれるのである。

I knocked and a man's voice said *come in*.

(B. Halliday : *This Is It, Michael Shayne*)

He said *to come in*.

(Ibid.)

そして一見したところ脆弱に見える…… is press the button の個所で Syntax が完全な勝利をおさめ得ない現状は、「Be 動詞 + to 不定詞」の idiomatic な用法との分業ということも原因の一端かも知れぬが、アメリカ英語において、動詞の未分化な形の典形である Bare infinitive が意外に強い底力を有しているということに原因があると思われるのである。

< 注 釈 >

① 次のように実際に名詞であっても構わないのである。

All you have to concentrate on is *your statement at the inquest*.

(D. du Maurier : *Rebecca*)

② このような意味では次の例文などやはり未分化な形と言える。

What I wonder is, *ought I to tell the police?*

(A. Christie : *Hickory, Dickory, Dock*)

Vanossa hired me to find his wife—all he wants is *her back in time to pay the monthly bills!*

(Carter Brown : *The Sometime Wife*)